

環境21世紀の会の事業

各種調査研究・政策の提言
行政への提言・各種申し入れ
広報活動及び講演会の実施、
共通する他団体との協調・連
帯を事業として環境との共生
を考え、活動しているボラン
ティア団体です。



環境と共生

第18号

平成19年2月1日 発行：環境21世紀の会 編集：総務会 有村親雄
住所 〒277-0042 柏市逆井4-9-5 TEL/FAX：04-7174-2135

ホームページ <http://homepage3.nifty.com/kankiyou21seiki/>

環境21世紀の会々員募集

ひっばくする環境問題、生
活者の側から、どう捉えどう
考え、どう実行に移すかが問
われています。
会員を募集しています。申
し込みは事務局まで、お問い
合わせ下さい。

第2 清掃工場 注目 の 砒素 問題 環境シンポジウム 開く

特 集

環境21世紀の会主催による「環境シンポジウム」が昨年の7月9日（日）の午後、柏市南部クリーンセンター（第2清掃工場）大会議室で開かれ、市民をはじめ、県会議員、市会議員を含め50余名が出席して開かれました。当日は、来場者も、柏の市民だけでなく、流山市、我孫子市からの参加もありました。注目されたのは前柏市第2清掃工場委員の三田村元孝氏が同工場で発生した砒素に関し行政及び関係企業、清掃工場委員に対して厳しい内容の報告がなされました。シンポジウムは、加藤隆二副会長の司会で、三上藤司会長挨拶のあと直ちに始まりました。

指定ごみ袋の導入と分別区分の変更効果あり

まず基調講演として「柏市のごみ事情」と題し、柏市環境部クリーン推進課主査 石名坂賢一氏は、現在のごみ処理の課題、指定ごみ袋の導入と分別区分の変更の1年実施後の効果について、特にプラスチック排出における刃物の混入の割合が大幅に減少した。又、リサイクル困難な非容器包装プラスチックが激減し、市外の外部委託費用が減少し、資源品の量が増加したとの報告がありました。更に、今後とも市民の方の協力をお願いしたいとの要請がありました。

又、最小のコストで最大のサービスを提供するために、廃棄物会計にメスを入れ、行政の責任として、ごみ処理費用を明らかにして市民に公開していきたいとの決意を述べられました。

国内バイオマス事例及び 千葉県 の 取組事例 と 柏市 の 対策？

続いて、「有機物資源のバイオマス」と題し、当会の鹿毛剛副会長が、化石燃料依存からバイオマスに変換への時期にきているという事例紹介がありました。具体的には、大田区下水処理場汚泥や某社ビール工場排水からのメタンガス燃料、横須賀市では家庭生ごみでメタン発酵させて走るごみ収集車、東京都大田区の実例を挙げて説明されました。今後の柏市の施策に入ることを期待しているとの提言もありました。詳細は、「環境と共生」第17号（平成18年6月1日発行）にバイオマス特集号として記載があります。

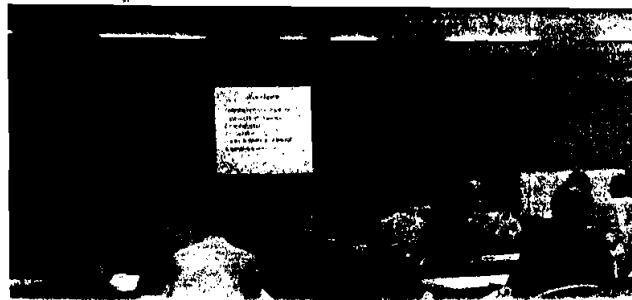
続いて、千葉県環境生活部資源循環推進課バイオマス・プロジェクトチーム主幹 矢沢裕氏は、「バイオマスの利活用に向けた千葉県の取組」と題し、千葉県は全国有数な農林水産業が盛んな県であり、地域の特性を生かしたバイオマスタウンの中核となる施設を作ることによって県内自治体の取り組み状況の説明がありました。又、県内の家畜排泄物、食品廃棄物、農作物残さ、木質系廃材、剪定枝、汚泥などのバイオマス利用状況に触れ、必ずしも100%の利用率で無いので、更に未利用分を高める必要性を説かれました。その他、被害木、間伐対象木は、潜在資源としてバイオマス資源ポテンシャルが非常に大きいとして、今後の課題との報告がありました。

シンポジウムで各パネラーより話題提供

このあと、当会副会長の鹿毛剛氏をコーディネーターに、千葉県の矢沢裕氏、市民代表として坂倉敏雅氏、環境プランナーの福井信行氏によるパネルディスカッションに移りました。尚、前柏市第2清掃工場委員の三田村氏は健康上の都合で欠席され、「清掃工場稼働後の周辺状況の監視」という論文を提出されました。内容は次に記載します。

坂倉敏雅氏は、「柏市のごみ処理事業を考える」と題し、旧柏市、旧沼南町のごみ処理費用を紹介されました。又、旧柏市は、再資源化率も高いが、資源化単価が高いことをも紹介され、廃棄物処理会計として、制度の設計や情報開示の必要性を説かれました。

又、柏市にわたりの会（鳥インフルエンザウィルスの関連で事業



熱心に聞く方々

中止）取手市のEMどりの会や長井市のレインボープランの堆肥化事業の事業評価や堆肥化費用についても報告がありました。最後に、米国のシアトル市のマッチングファンドの例を挙げ、行政が求める施策に行政が資金助成をして、市民が知恵、企画、ボランティア労働力で事業を実施するプロジェクトが紹介され、将来の柏市のごみ処理事業の取組みに対し、提言されました。

福井信行氏は「環境プランナーの観る『環境問題の森』」と題し、環境問題を発生している根本要因は、①産業革命以降に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料を大量消費して、文明を急速に発展させたこと、②世界人口が急激に増加し、食料確保のために森林伐採による耕作地開発やエネルギー消費に起因している。私達は、環境問題にどう向かいあうについては、今日の人々の理解は大変幅が広いので、環境問題への取組みに効果的な結果を得るためには、「環境問題観」を出るだけ共通化したうえで、共有化することが大事であると説かれました。又、企業の環境問題に触れ、環境問題への対応が悪ければ、その企業は衰退の道を辿らざるを得ないという厳しい話もありました。

シンポジウムに参加した会場の方から多くの質問及び討議がなされ、有意義に終了しました。最後に、協賛した「かしわ環境ステーション」の情報交流部会の松清智洋部会長より、かしわ環境ステーションの紹介と入会勧誘があり、閉会になりました。

第2清掃工場稼働後の周辺環境の状況の監視

前第2清掃工場委員 三田村 元孝

第2清掃工場も平成17年4月に、正式に建設者である日立造船（株）から柏市へと移管された。それに伴い、第2清掃工場を運転管理する会社、「柏環境テクノロジー（株）」が日立造船の100%子会社として発足して、その責任にあたる。

そして又、柏市、工場稼働後の監視体制として、平成16年6月に柏市第2清掃工場委員会を作り、6月26日（土）第一回委員会を開催して発足した。清掃工場委員会の人員は途中で増加し、現在の委員数は28人である。その内訳は学識経験者8人、隣接5町会（逆井町会、新築町会、南増尾町会、桜ヶ丘町会、ファミリーハイツ逆井自治会）から各2人、計10人、他には、3地域ふるさと協議会（藤心、南部、酒井根）から6人、9団体から1人、公募委員3人の構成になっている。

溶融飛灰固化物の砒素の溶出基準値超過

第2清掃工場委員会に於いては、市が市民に対して約束した各種環境基準値の測定方法の確認及びその周知方法又清掃工場一次頁に続く

